

地域文化創造機構ニューズレター

Institute for Regional Culture Development Newsletter

Vol. 17

2016. 2. 25

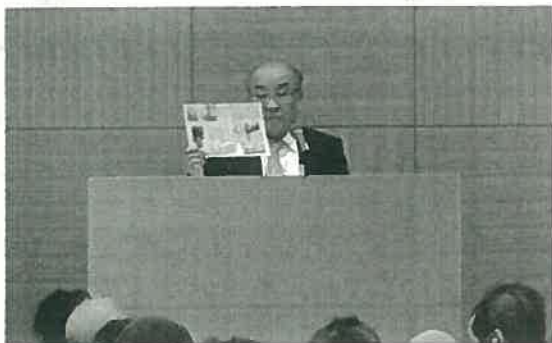
活動報告

トピックス 1

近松講演とミニ対談 255人が熱心に受講

地域文化創造機構教授 副機構長
豊島 眞介

日本のシェークスピアとうたわれる近松門左衛門（1653～1724）を取り上げた講演とミニ対談「上町から北摂に広がる近松の世界」が2月6日（土）午後1時から大阪城スクエアで開かれ、民255人が熱心に耳を傾けました。



阪口弘之・大阪市立大学名誉教授

追手門学院は学院発祥の地・上町台地の歴史文化を再発見し、「古都大阪」の魅力を理解していただく「上町学プロジェクト」を2008年から5年間にわたって展開してきました。追手門学院大学地域文化創造機構は大学の所在地・茨木を中心にした北摂地域をテーマにした研究会を開くなどして、上町学から北摂学への展開を図っています。今回の講演とミニ対談はその一環として開催されました。

講演に先立つ挨拶で、河合博司・地域文化創造機構長が「この中で近松を主人公にしたNHKのドラマ“ちかえもん”をご覧になっている方は？」と挙手を求めると、参加者の半数近くが手を挙げ、ドラマ人気も相まって多数の受講者が詰めかけたことが分かりました。

講演されたのは近松読本の決定版『近松門左衛門三百五十年』編纂の中核で、近松研究の第一人者、阪口弘之・大阪市立大学名誉教授。近松の家系が公家の三条家であることから、「優雅な生まれ育ちで堂上の人と交流のあった近松がなぜ四条河原の芝居の世界に身を投じたのか。

相当な覚悟が必要だったと思う」と口火を切りました。その近松が大坂に移住したのは52歳のころ。「伊丹市の小西酒造に2通近松からの手紙が残っていて、そこから近松が芝居町近くの島之内界限に住んでいたことが分かりますし、72歳で亡くなるまで、上町を舞台にした作品は枚挙にいとまがない」と話しました。

メインテーマはその近松と北摂との関わり。箕面の滝の下にある瀧安寺を舞台にした歌舞伎狂言「けいせいゑどざくら」が元禄11年（1698）に京都で上演されています。阪口先生は「都の真ん中と、箕面の山中がなぜつながるのか。近松は元禄5年（1692年）、坂田藤十郎ら歌舞伎役者と一緒に瀧安寺へ大般若経を寄進しています。その瀧安寺は役行者が開基のお寺。元禄12年には役行者千年忌法要が営まれ、それを前にした元禄11年に京都東山の長楽寺で出開帳というのですが、瀧安寺の御開帳が行われています。このように歌舞伎と出開帳は切っても切れない関係があったのです」と解き明かしました。

また、この当時、上方で活躍した役者で、作者も兼ねた金子吉左衛門の日記『金子一高日記』に、近松と金子が毎日のように歌舞伎狂言作りの相談をしていることを例に挙げて、元禄14年に京都の宇治座で初演された「丹州千年狐」

（2年後に大坂竹本座で、近松作「天鼓」と改題して上演）について、「浄瑠璃でも歌舞伎と同様に合作的な作り方がされた可能性がある」と指摘しました。さらに「浄瑠璃、歌舞伎はいろんな人間がからみあいながら作っている。浄瑠璃も初めから一人で書いていたというよりは、もっと多様な形で作っていたかも。歌舞伎界との連携は見逃せないのです。曾根崎心中にしても、歌舞伎界からやってみたらどうだと背を押されて作り上げたのかもしれない」と話しました。

活動報告

この後のミニ対談は上町学プロジェクトの中心になった追手門学院大学学長補佐で地域創造学部副学部長の山本博史教授が加わって軽妙なトークを展開しました。笑いを誘ったトークの一部を紹介すると――。

山本：私の専攻は哲学なのに、まったく門外漢の近松をやらされるのですから無茶振りもいいところです。上町学プロジェクトで、近松の墓には行ったことがあります。谷町7丁目交差点の南東の歩道わきで、見過ごすようなところ。ところが尼崎ってすごいですね。近松記念館に銅像、近松公園に、近松橋。毎年、近松がらみのイベントをやっている。マンホールには「近松の町 尼崎」と書いてある（笑い）。

阪口：尼崎は公害の町のイメージを払しょくするのに、近松がいいとなった。以前は市役所に近松課までありました。大阪は尼崎に完全に負けています。

山本：それにしても「上町から北摂に広がる」という枕を巡る難しさがあります。「大経師昔暦」に登場するおさん、茂兵衛の「恋道中碑」が茨木サニータウンの中にあるのですが、二人が心中したと書いてある。おさん、



ミニ対談の様子

茂兵衛は刑死したはずですし、京都から丹波に落ち延びるのにわざわざ茨木に来るか。

阪口：まったくありえない話ですね（笑い）。

山本：曾根崎心中の中に出てくる鐘の音で、これが西寺町にあった寒山寺の鐘だという説があります。この寒山寺は豊臣秀吉が作った菜種御殿の跡地にできたといわれています。近世、茶屋町以北は菜種畑でしたし、当時の北摂の農村の主要裏作は菜種だったと北摂各市の市史にあるのは確認しました。北摂一帯の菜の花が近松の作品「女殺油地獄」の背景に広がっています。これがオチです。

トピックス 2

「至福のコンサート」「ドイツの空気や言葉」
松浦紫陽 ピアノ・リサイタルに感激の声

教育支援課 係長
(地域連携担当)

石田 弘樹



松浦紫陽さん ピアノ演奏

1月24日（日）午後、大阪城スクエアで第37回アドバンスト・リサイタルとして「松浦紫陽 ピアノ・リサイタル」が開かれました。モーツァルトのピアノソナタ第11番、ラフマニノフの前奏曲、ベートーヴェンのピアノソナタ第32番など透き通った音色に、169人の観客は酔いしれて、演奏終了後も興奮冷めやらない様子でした。

元追手門学院中・高等学校音楽教諭、池内光宏さんは「至福のコンサートでした。モーツァルトの作品で勝負するのは、恐ろしいのです。そのモーツァルトの音がきれいで、清潔そのもの。音の粒が揃い、一音一音が鮮明で歯切れよく、早いパッセージでもペダリングが絶妙で、音が決して濁らない。追手門学院が誇るべき逸材です」とコメントを寄せていただきました。

松浦さんは2000年3月の追手門学院高等学校の卒業生（48期生）で、高校時代に教えた榎木愉美子講師（音楽担当）は「Wonderbar！紫陽さん。典雅流麗なピアノの音色、音楽は、聴衆の私たちを幸せな時間へといざなって下さいました。大阪城スクエアがヨーロッパの貴族の館やお城に訪れたのかと錯覚するごとく、まさにドイツの空気や言葉で語りかけてくれているようでした」とコメントされました。

おうてもんジュニアキャンパス2016
冬のスポーツ教室を開催

教育支援課 係長 石田 弘樹
(地域連携担当)

「おうてもんジュニアキャンパス2016冬のスポーツ教室」が2月20日（土）午前、午後の2回にわたって追手門学院大学で開かれ、小学生（延べ188人）が参加しました。大学と地域のつながりを深める目的で開いているもので、今回は体育系クラブ・サークルの大学生が先生になってラクロスやハンドボール、ダンスなど13教室を開催しました。



サッカー教室



アーチェリー教室

「アーチェリー教室」では関西1部リーグで活躍する強豪の洋弓部が、小学生の身長より長い弓の引き方を丁寧に指導しました。初めて弓を持つて的を凝視する小学生の顔つきが印象的でした。



チアリーダー教室（ダンス・コース）

残念ながら雨天となり、一部の教室は体育館での実施となりましたが、それぞれの教室では、明るい声と笑顔が満開の状態でした。



体力づくり教室

アンケートには、「ラリーが60回つづ

いて、うれしかったです。」（卓球教室：3年生）、「バレーボール教室3回目で知っている大学生の人もいて、すごく楽しかったです。今年で終わりですが、バレーボールは続けようと思っています」（バレーボール教室：6年生）、「また、おねえさんといっしょに、おどりたいです。」（チアリーダー教室ダンス・コース：2年生）、「普段ふれた事のないスポーツにトライできて楽しそうでした。初めは緊張した顔をしていましたが、大学生のお兄さんお姉さんがフレンドリーに声かけをしてくれたおかげで、段々表情がかわってきたのが印象的でした。また来年も機会があれば参加してみたいです」（ハンドボール教室：保護者）等の感想が書かれていました。



バドミントン教室



ダンス教室

活動報告

今回は、学友会、学友会体育会、無所属委員会、女子サッカー部、男子サッカー部、女子ラクロス部、ハンドボール部、ReaRhythm、卓球部、洋弓部、バレーボール部、バドミントン部、チアリーダー部、硬式庭球部、漕艇部、



ハンドボール教室



体力づくり教室

追手門学院中・高等学校の協力で実施、中学校の見学会も行いました。

おうてもんジュニアキャンパスは毎年夏には文化系の教室を、冬には体育系の教室を門催しています。次回をお楽しみに。

トピックス 4

ビッグフラッグプロジェクトに参加 —ガンバ大阪サポーターのメッセージを集めました—

教育支援課
(地域連携担当)

八瀬林 昌雄

大阪モノレール開業25周年を記念したガンバ大阪応援企画『ビッグフラッグプロジェクト』が2月14日(日)午前11時から2時間、吹田サッカースタジアムで行われました。新スタジアムのこけら落としイベントが行われたのに合わせて開催されたもので、本学経営学部の水野ゼミ生が参加して、フラッグへのメッセージ記入のお手伝い。新スタジアムの前に設置されたブースで、ガンバボーイも一緒に、

サポーターからメッセージを集めました。メッセージで一杯になったビッグフラッグは、新スタジアムでJリーグ開幕戦が行われる28日(日)、大阪モノレール万博記念公園駅



水野ゼミの皆さん

でお披露目される予定です。

参加した学生の中さん、神さんは、「サポーターにガンバ大阪のビッグフラッグにメッセージを書いて頂き、実際にサポーターと触れ合う事で、一人一人の想いをじかに感じる事ができました。ガンバ大阪は多くの人に愛されているクラブだと痛感しました。産学連携プロジェクトに参加し、社会人の方と交流できたことはとても貴重な経験です」と感想を寄せてくれました。



ビッグフラッグへのメッセージ記入

地域文化創造機構 ニュースレター

発行/追手門学院大学 地域文化創造機構

お問い合わせ

追手門学院大学 地域文化創造機構 「連携考房 童子」
〒567-0816 大阪府茨木市永代町4-202 (阪急茨木市駅前「Socio-2」2階)
TEL:072-621-6015 FAX:072-622-1360 E-mail:douji@otemon.ac.jp